

《担当者名》池森 康裕 sr528@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

利用者の尊厳と自立（律）した生活を支える観点から、必要な知識と技術を学ぶ。特に生活関連動作のもととなる「移動・移乗」の知識と技術を学ぶ。

【学修目標】

1. ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解する。
2. 利用者が自立した生活がおくれるよう、生活の概念や生活支援の方法を理解する。
3. 自立に向けて安全・安楽な移動ができるために、身体状況に応じた生活支援技術を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 生活支援の理解	この科目で学ぶこと・科目の位置づけについて理解する。 介護福祉士が行う生活支援の意義・目的を理解し、説明できる。	池森
2	生活支援と介護過程	ICFに基づく生活支援を理解、説明できる。	池森
3	他職種との連携	生活支援とチームアプローチを理解し、説明できる。	池森
4	自立に向けた移動の介護	移動の意義と目的を理解し、説明できる。 （廃用症候群）	池森
5	移動・移乗の基礎的理解	移動動作の基礎理論について理解し、説明できる。 （ボディメカニクス）	池森
6	対象者に応じた介護	感覚機能・運動機能が低下した人の生活を理解し、説明できる。（高齢者疑似体験）	池森
7	自立に向けた移動・移乗の介護	体位変換の介護を理解し、説明・実施できる。 （ベッドメイキングと上方移動）	池森
8	自立に向けた移動・移乗の介護	体位変換の介護を理解し、説明・実施できる。 （水平移動と起き上がり介護）	池森
9	自立に向けた移動・移乗の介護	体位変換の介護を理解し、説明・実施できる。 （起き上がり介護と安楽な姿勢保持）	池森
10	自立に向けた移動・移乗の介護	身体に障がいのある人への立ち上がりと歩行の介護を理解し、説明できる。（杖歩行）	池森
11	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすの機能と安全な使用方法を理解し、説明・実施できる。（室内）	池森
12	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすの機能と安全な使用方法を理解し、説明・実施できる。（屋外）	池森
13	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすへの移乗方法を理解し、説明・実施できる。（全介助）	池森
14	自立に向けた移動・移乗の介護	車いすへの移乗方法を理解し、説明・実施できる。（一部介助）	池森
15	生活支援と福祉用具	福祉用具（介護ロボット含む）を活用した安全で安楽な移乗介助を理解し、説明・実施できる。（ノーリフティングと事故予防）	池森
16	安楽な姿勢・体位の保持	褥瘡の予防について理解し、説明・実施できる。	池森
17	自立に向けた歩行介助	視覚障害者のガイドヘルプを理解し、説明・実施できる。（学内）	池森
18	自立に向けた歩行介助	視覚障害者のガイドヘルプを理解し、説明・実施できる。（学外）	池森
19	自立に向けた移動・移乗の介護	身体に障がいのある人の、起き上がりから車いす移乗	池森

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		を理解し、説明・実施できる。	
20	自立に向けた移動・移乗の介護	身体に障がいのある人を、車いすからベッドへ移乗し、臥床介護を理解し、説明・実施できる。	池森
21	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して理解し、介護の留意点を説明・実施できる。（事例A）	池森
22	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して、コミュニケーションの留意点を理解し説明・実施できる。（事例A）	池森
23	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して理解し、介護の留意点を説明・実施できる。（事例B）	池森
24	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して、コミュニケーションの留意点を理解し説明・実施できる。（事例B）	池森
25	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して、自立に向けた移動介護を理解し説明・実施できる。（事例A）	池森
26	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知機能が低下した事例を通して、自立に向けた移動介護を理解し説明・実施できる。（事例B）	池森
27	福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の種類を理解し、説明できる。	池森
28	福祉用具の意義	適切な福祉用具を選ぶための視点を理解し、説明できる。	池森
29	多職種連	他職種の役割と介護福祉職との連携を理解し、説明できる。	池森
30	全体のまとめ	この科目で学んだことの振り返りを理解する。 授業全体を通じた質疑応答	池森

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験50%、実技試験50%

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座 6 『生活支援技術 第2版』 中央法規 2022

【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座14 『こころとからだのしくみ 第2版』 中央法規 2022

【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「生活支援技術」に該当する。

【学修の準備】

1. 演習では動きやすい服装と上靴を準備すること。
2. 腕時計、イヤリングなどのアクセサリは外すこと。
3. スカートや外靴では演習を受けられないので注意すること。
4. 講義・演習で渡した資料はファイルに保管して、毎回持参すること。
5. 演習を行う上では、次回の内容を事前にシラバスで確認し教科書を一読しておくこと。（予習）
6. 演習で身に付けた技術は、障がいに応じた生活支援技術が提供できるよう資料とテキストを復習する。（復習）
7. 前回行った演習内容を復習すること。（復習）
予習：2時間 復習：2時間

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【留意事項】

演習時は、学生同士のグループで進めるので、遅刻・欠席は他の学生へ影響を及ぼすので次の点に注意する。

1. 遅刻、早退、欠席は極力避けること。
2. 15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。
3. 遅刻・早退 3 回で 1 回の欠席としてカウントするので注意すること。

【実務経験】

介護福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。